

論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

<p>① ・ 乙</p>	<p>氏 名</p>	<p>三上 博信</p>
<p>学 位 論 文 名</p>	<p>Effects of Metoclopramide and Acotiamide on Esophageal Motor Activity and Esophagogastric Junction Compliance</p>	
<p>学位論文審査委員</p>	<p>主 査 副 査 副 査</p>	<p>紫 藤 治 土 屋 美 加 子 北 垣 一</p>
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>胃食道逆流症(GERD)の重要な病態として、下部食道括約筋 (LES) 収縮圧の低下や食道運動機能低下に伴う内容物のクリアランス能の低下が知られるが、近年は食道胃接合部 (EGJ) の伸展性の上昇が注目されている。消化管運動機能改善薬は胃や小腸の蠕動運動を亢進することから、食道運動機能を亢進しGERDの病態を改善することが期待されるが、未だ十分な検討はない。申請者は、食道の運動を詳細に評価できる高分解能食道内圧検査 (HRM) に加え、EGJの伸展性を評価できる新規の検査機器 (EndoFLIP) を用いて、作用機序の異なる二種類の消化管運動機能改善薬 (メトクロプラミド、アコチアミド) の食道運動機能への効果を検討した。メトクロプラミドは健常ボランティア9名を対象に、アコチアミドは健常ボランティア9名とGERD患者3名を対象とし、薬剤の投与前後で食道運動機能の評価を行った。メトクロプラミドは食道体部の蠕動運動やLES圧を亢進させたがEGJの伸展性に影響しなかった。アコチアミドは食道蠕動運動やLES圧、EGJの伸展性のいずれに対しても効果はなかった。本研究は、消化管運動機能改善薬の食道運動およびEGJの伸展性への効果について高度の技術を用いて新たな知見を得たもので、これらの薬剤のGERDに対する臨床応用を検討するにあたり重要となるため、博士 (医学) の学位授与に値すると判断した。</p> <p>最終試験又は学力の確認の結果の要旨</p> <p>申請者は、GERDの病態の改善を目指して高度な機器ならびに高度な技術を駆使し、二種の消化管運動機能改善薬の食道運動機能への効果を検討した。得られた結果は極めて貴重であり、学術的意義も高い。公開審査時の質疑応答は適切で、基本的小および関連する知識も十分で、学位授与に値すると判定した。 (主査：紫藤 治)</p> <p>申請者は、HRM 及び EndoFLIP を用いて健常人と GERD 患者における食道の運動性と EGJ の伸展性に対する消化管運動作動薬の効果を検討しこれを報告した。本研究は GERD のより良い治療法開発に資するものであり、また申請者の関連分野についての知識も十分であることから学位授与に値すると認める。 (副査：土屋美加子)</p> <p>申請者はメトクロプラミドとアコチアミドの持つ有効性を人を対象とした食道運動と拡張性の測定により実証した。GERDの治療に有意義な知見である。公開審査での質疑応答は的確で、周辺知識も豊富であり学位に値すると判断した。 (副査：北垣 一)</p>		

(備考) 要旨は、それぞれ400字程度とする。